豊見城中央病院整形外科専門研修プログラム

目次

1. 整形外科専門研修の理念と使命
2. 豊見城中央病院整形外科専門研修後の成果
3. 豊見城中央病院外科専門研修プログラムの目標と特徴
4. 研修方法
4.1 基本方針
4.2 研修計画
・門知識の習得計画
・専門技能の習得計画
・学問的姿勢
・経験目標（経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等）
・プログラム全体と各施設におけるカンファレンス
・リサーチマインドの養成計画
・学術活動における研修計画
・コアコンピテンシーの研修計画
・地域医療に関する研修計画
・サブスペシャルティ領域との連続性について
・自己学習の環境
4.3 研修およびプログラムの評価計画
・専攻医の評価時期と方法
・プログラムとしての FD(Faculty Development)の計画
・専門研修プログラムの改善方法
4.4 専攻医の就業環境の整備機能
4.5 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について
4.6 修了要件
5. 研修スケジュール、研修ローテーション、専門研修施設、指導医
6. 専門研修プログラムを支える体制
7. 募集人数と応募方法

1. 整形外科専門研修の理念と使命

整形外科専門医は、国民の皆様に質の高い運動器医療を提供することが求められています。このため整形外科専門医制度は、医師として必要な臨床能力および運動器疾患全般に関して、基本的・応用的・実践能力を備えた医師を育成し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献することを理念とします。

整形外科専門医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技術の習得に日々邁進し、運動器に関わる疾患の病態を正しく把握し、高い診療実践能力を有する医師でなければなりません。

整形外科専門医は、生活習慣や災害、スポーツ活動によって発生する運動器疾患と障害の発生予防と診療に関する能力を備え、社会が求める最新の医療を提供し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献する使命があります。

整形外科専門医は、運動器疾患全般に関して、早期診断、保存的および手術的治療ならびにリハビリテーション治療などを実行できる能力を備え、運動器疾患に関する良質かつ安全で心のこもった医療を提供する使命があります。

2. 豊見城中央病院整形外科専門研修の成果

豊見城中央病院研修プログラムを修了した専攻医は、外傷のみならず変形性疾患に対する保存的・手術的治療を数多く経験し、その症例経験から会得した医療技術をもって社会に貢献するものである。あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技能を習得できるような幅広い基本的な臨床能力（知識・技能・態度）が身についた整形外科専門医となることができます。また、同時に専攻医は研修期間中に以下の基本的診療能力（コアコンビテンシー）も習得できます。

1) 常に品格を保ち、身だしなみや言葉使いなど社会人として恥ずかしくない行動をとれること
2) 精神的・肉体的に健全であること。
3) 医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること。
4) 患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くこと。
5) 自立して、誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されること(プロフェッショナリズム)
6) 診療記録の適切な記載できること。
7) 臨床という直接体験を通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を習得すること。
8) チーム医療の一員として行動すること。
9) 後輩医師に教育・指導を行うこと。

10）地域医療の重要性を十分に理解し、地域住民の健康維持向上に貢献すること。
特徴:自立したプロフェッショナルとしての整形外科医を目指して。

3. 豊見城中央病院整形外科専門研修プログラムの目標と特徴

豊見城中央病院整形外科専門研修プログラムは到達目標を「実践に強い整形外科医師」としています。2018 年からスタートする新専門医制度に先立ち、豊見城中央病院整形外科では 2009 年より独自の後期研修プログラムを構築・運用してきました。その経験と実績により洗練された研修内容を提供します。

整形外科学は、運動器の機能と形態の維持・再建を目指す臨床医学であり、脊椎・上肢・下肢などの広範な診療領域を扱います。高齢化型社会を迎えた我が国においては、整形外科への期待はますます大きくなっております。現在、豊見城中央病院整形外科には、脊椎、股関節、膝関節、スポーツ医学、上肢・手外科、足の外科、小児整形、リウマチ、骨代謝、リハビリテーションなどの診療があります。連携施設は腫瘍、地域医療、小児整形、リハビリテーションなどの担当病院があり、機能的なローテーションによりプライマリケアから地域包括医療に至る過程を習得することができます。救急外傷のみならず、変性疾患の手術症例数は全国トップレベルで、手術症例は年間約 2,000 件に及んでおります。脊椎手術、人工膝関節、人工股関節の手術件数はここ数年県内で第 1 位を維持しています。

他科との連携による患者の安全な周術期管理が行われており、数多くの手術を経験し、臨床医としての研鑽が積める環境にあります。

4. 研修方法

参照資料
整形外科学会プログラム整備基準及び付属資料(日本整形外科学会 HP)
https://www.joa.or.jp/edu/index.html

4.1 基本方針

整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って、豊見城中央病院（基幹施設）および連携施設群において研修を行います。専門知識習得の年時毎の到達目標と専門技能修得の年時毎の到達目標は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 1「専門知識習得の年次毎の到達目標」、資料 2「専門技能習得の年次毎の到達目標」を参照して下さい。

研修実績の記録と評価には、日本整形外科学会会員マイページ web を用います。専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また指導医評価表で指導体制、研

修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。また、指導医は抄読会や勉強会、カンファランスの際に専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行います。

研修実績と評価をもとに、専門研修最終年度の 12 月に研修プログラム管理委員会において、専門研修修了判定を行います。判定基準は【4.6 修了要件】に定めるとおりです。

このプログラムおよび専門研修プログラム管理委員会はサイトビジットを含む第 3 者の評価・指導を受けます。またその際に研修プログラム統括責任者、研修連携施設指導管理責任者、指導医ならびに専攻医は真摯に対応いたします。

4.2 研修計画

・整形外科基本領域の専門研修は、大学病院や特定機能病院のみならず、地域の中核病院、一般病院、診療所など、さまざまな規模、形態の医療機関を通じて行われるものとする。原則としてプログラム制による研修とするが、卒業後に義務年限を有する自治医科大学、防衛医科大学、産業医科大学の卒業生、地域枠卒業生と出産、育児、留学などで長期にプログラムを中断しなければならない相当の合理的な理由がある場合は、カリキュラム制での研修を選択できることとする。また、他基本領域の専門医を取得してから整形外科専門研修を開始する専攻医はカリキュラム制での研修とする（カリキュラム制での研修制度については資料 14 参照)。
・プログラム制による研修、カリキュラム制による研修とも研修開始時点から日本整形外科学会会員でなければならない。
・整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児、小児、学童から成人、高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を研修するために、整形外科専門研修は 1 ヶ月の研修を 1 単位とする単位制をとり、全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の 10 の研修領域に分割し、専攻医が基幹病院および連携病院をローテンションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3 年 9 か月で 45 単位を修得する修練プロセスで研修します。
・初期臨床研修期間中や他領域の専門研修期間中に整形外科指導医のもとで研修した症例については整形外科専門研修期間の症例としてカウントすることができるものとする

①専門医知識の習得計画

専攻医は、整形外科研修カリキュラム に沿って研修し、整形外科専門医として、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を涵養する。さらに、進歩する医学の新しい知識を修得できるように、幅広く基本的、専門的知識を修得する。専門知識習得の年次毎

の到達目標を別添する資料 1 に明示する。

②専門技能の習得計画

専攻医は、整形外科研修カリキュラム に沿って研修し、整形外科専門医として、あらゆる運動器に関する幅広い基本的な専門技能(診察、検査、診断、処置、手術など)を身につける。専門技能習得の年次毎の到達目標を別添する資料 2 に明示する。

③学問的姿勢

一般目標

臨床的な疑問点を見出して解明しようとする意欲を持ち、その解答を科学的に導き出し、論理的に正しくまとめる能力を修得する。

行動目標

1. 経験症例から研究テーマを立案しプロトコールを作成できる。
2. 研究に参考となる文献を検索し、適切に引用することができる。
3. 結果を科学的かつ論理的にまとめ、口頭ならびに論文として報告できる。
4. 研究・発表媒体には個人情報を含めないように留意できる。
5. 研究・発表に用いた個人情報を厳重に管理できる。
6. 統計学的検定手法を選択し、解析できる。

④経験目標(経験すべき疾患･病態・診察・検査等、手術処置等)

経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等は、整形外科専門研修カリキュラム に明示された症例数以上を豊見城中央病院及び連携施設で偏りがないように経験することができます。

⑤プログラム全体と各施設によるカンファレンス

各研修施設の研修委員会の計画の下、症例検討・抄読会はすべての施設で行います。専攻医の知識・技能習得のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。

⑥リサーチマインドの養成計画

すべての専攻医が自ら症例を用いて研究した成果を発表するカンファレンスを年 1 回開催します。研究指導は各施設の指導医が行います。

⑦学術活動における研修計画

研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続きにより 30 単位を修得する。また、1 回以上の学会発表、筆頭著者として 1 編以上の論文を作成する。

⑧コアコンピテンシーの研修計画

整形外科専門医としての臨床能力（コンピテンシー）には、専門的知識・技能だけでなく、医師としての基本的診療能力（コアコンピテンシー）が重要であることから、どの領域から研修を開始しても基本的診療能力を身につけさせることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによって基本的診療能力を早期に獲得させます。

豊見城中央病院および各研修施設の医療倫理・医療安全講習会（セーフティーマネージメント）・院内感染対策講演会に参加し、その参加状況を年１回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

⑨地域医療に関する研修計画

プログラムの研修施設群は医師不足地域中核病院を含みます。全ての専攻医は医師不足地域中核病院（南部病院）に最低３カ月間(3 単位)に相当する期間勤務することを必須とする。尚、常勤で３ヵ月間連続して勤務しなくても、常勤や非常勤での勤務期間が合計３ヵ月間相当であっても可とする(単位のカウント方法については資料６研修方略を参照)。

地域医療を研修する医療機関での整形外科研修は、整形外科専門研修プログラム管理委員会が指定した指導医と勉強会、カンファランスの機会を設けたり、指導医に非常勤で外来診療、手術の指導などを受けたりするなどして密接な連携をとって行うようにすること。また基幹施設及び連携施設は僻地などの整形外科と緊密な連携をとり、医療の質を保つことができるシステムを構築する。

⑩サブスペシャリティ領域との連続性について

脊椎・脊髄外科、リウマチ、手外科等のサブスペシャリティ領域の研修について、サブスペシャリティ領域の基本領域との間の専門研修と見なしうる経験内容を明確にし、サブスペシャリティ領域への連続的な育成に配慮する。なお、研修期間中に専攻医がサブスペシャリティ領域の症例経験や学会参加などを行うことは自由とする。

⑪自己学習の環境

日本整形外科学会や関連学会が認定する教育講演受講、日本整形外科学会が作成する e-Learning や Teaching file などを活用して、より広く、より深く学習する。日本整形外科学会作成の整形外科卒後研修用 DVD 等を利用し診断・検査・治療等の教育の充実を図る。職員専用図書室（24 時間利用可）日本整形外科学会雑誌と Journal of Orthopaedic Science(JOS)など常時閲覧できる環境にあります。文献検索は当院にない文献は他施設から取り寄せ可能。院内 HP にて、新刊雑誌・図書の確認や院内所蔵検索が可能。

・文献検索データベース（医中誌Web、メディカルオンライン、PubMed）

・臨床情報医学ツール（UpToDate、DynaMed、今日の診療、ドリームスコープ）
・電子ジャーナル（Journals@Ovid、Journals Consult 等）

4.3研修およびプログラムの評価計画
①専攻医の評価時期と方法
　専攻医および指導医は研修記録による研修実績評価を6カ月に1回行い（9月末および3月末)、専門研修プログラム管理委員会に提出します。
　他職種も含めた豊見城中央病院および各研修施設での研修評価（態度も含めた総評）を各施設での研修修了時に行います。

②プログラムとしてのFD(Faculty Development)の計画
　指導医は整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 12「整形外科指導医マニュアル」(日本整形外科学会ホームページ参照)に従って専攻医を指導します。
　指導医の指導技能向上のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。厚生労働省および日本整形外科学会主催の指導医講習会へ参加し、その参加状況を年1回専研修プログラム管理委員会に報告します。

③専門研修プログラムの改善方法
　評価を行う際、専攻医は指導医、専攻医指導施設、専門研修プログラムに対する評価も行う。また、指導医も専攻医指導施設、専門研修プログラムに対する評価を行う。専攻医指導施設に対する評価には、労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれる。評価は半年～一年毎に行われ、臨床研修支援室事務員がまとめる。評価時期でなくとも問題があれば随時、臨床研修支援室事務員が受け付ける。それらの内容はプログラム管理委員会に報告される。

4.4専攻医の就業環境の整備機能
　専門研修プログラム管理委員会は、専攻医に対するアンケートと面接で各施設の就業環境を調査します。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、専門研修指導責任者に文書で通達・指導します。

4.5整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について
　傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計6ヶ月間以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することが求められる。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域

の研修委員会の同意が必要です。

4.6 修了要件

①各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること

②行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること。

③臨床医として十分な適性が備わっていること。

④研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により30単位を修得していること。

⑤1回以上の学会発表か筆頭著者として1編以上の論文があること。

5. 研修スケジュール、研修ローテーション、専門研修施設、指導医

豊見城中央病院では整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」にあるすべての分野を研修することができます。最新の設備と豊富な症例を経験しながら、専門分野ごとの症例検討や抄読会などより専門的な知識・技能を指導します。

整形外科診療の現場における研修方法の要点については、整形外科専門研修プログラム整備基準附属解説資料 13「整形外科専攻医研修マニュアル」(日本整形外科学会ホームページ)を参照。

【豊見城中央病院週間及び月間予定表】

	月	火	水	木	金	土
7:30～		整形外科 抄読会 ・症例検討会	第二(医局講演会)、 第四(ｾｰﾌﾃｨｰﾒﾈｼﾞﾒﾝﾄ勉強会)			ER ｶﾝﾌｧ CPC
8:30～	外来 手術	外来・手術	術前術後検討会 外来 手術	外来 手術	外来 手術	外来 手術
14:00	病棟 手術	病棟 手術	病棟 手術	病棟 手術	病棟 手術	

毎月、消防隊を含めた全科での救急症例検討会も開催しています。半年ごとにある関節外科研究会および脊椎外科研究会に参加し、他院整形外科との情報交換も行っています。また豊見城中央病院主催で、登録医を対象として南沖縄整形外科医会の開催を行っております。

本プログラムの連携施設は 4 施設です。連携施設(琉球大病院、福岡大学病院、手稲渓仁会病院)、地域医療(南部病院)。

遠隔地である福岡大学病院は手外科、上肢、股関節、膝関節、足関節、脊椎、小児整形及び腫瘍と、整形外科疾患のほとんどの領域をそれぞれの専門医が担当している。特に股関節

において、発達性股関節形成不全に対する骨切り術は日本で一番の症例数をほこる。加えて、福岡大学病院に併設された救命救急センターにも整形外科スタッフを常勤させ外傷にも対応しており幅広い研修が可能であります。

手稲渓仁会病院は北海道の地域医療支援病院に該当します。以前から NPO 法人 VHJ 機構委員会に属しており、その中の臨床研修推進事業の一環として「研修医・指導医交流会」や「専攻医(後期研修医)交流研修制度」などの事業があり、これまでも互いに臨床研修の交流と充実を推進してきた経緯があります。救命救急センターを併設していることから「運動器の外傷」症例が多く、様々な整形外科外傷患者の初期診断・治療・管理および骨折や軟部組織損傷に対する手術手技の習得が可能であります。

これらの病院の特徴を生かした研修を行うこと、ならびに沖縄県以外の地域における整形外科診療や病病連携、病診連携を経験する事を目的とし、他県である福岡大学病院、手稲渓仁会病院での研修を行います。

【専門研修施設群一覧】

(1, 脊椎 2. 上肢・手 3. 下肢 4. 外傷 5. リウマチ 6. スポーツ 7. 小児整形 8. 腫瘍 9. リハビリ 10. 地域医療)

医療機関	修得可能な研修領域
豊見城中央病院	1. 2. 3. 4. 5. 6. 9
琉球大学医学部附属病院	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8.
福岡大学病院	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9

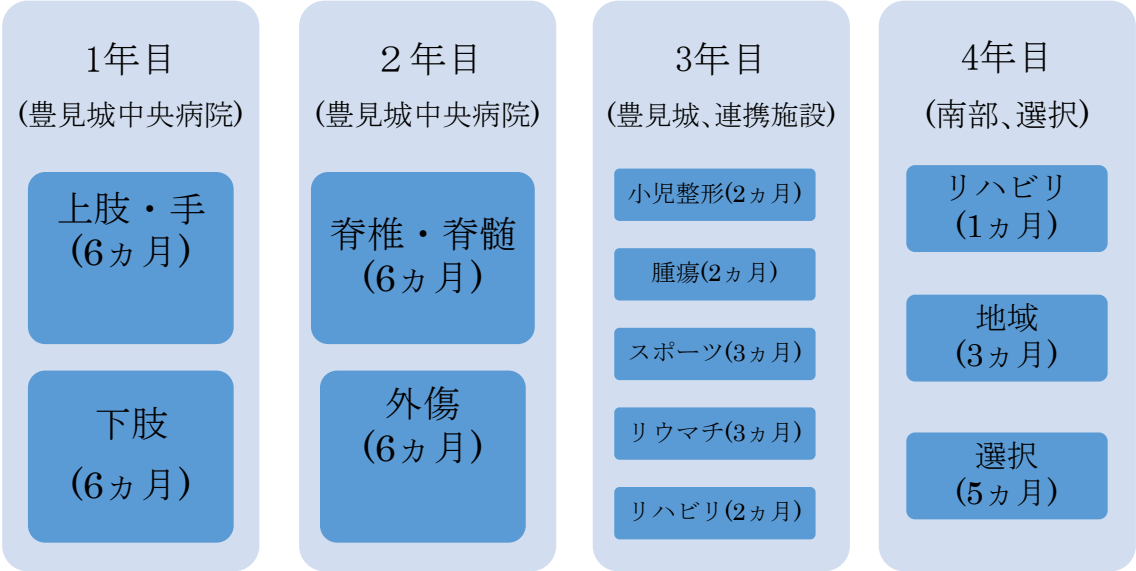
手稲渓仁会病院	1.2.3.4.5.6.7.8.9
南部病院	9.10

【専門研修指導医一覧】

施設名	指導医名	指導分野 1	指導分野 2	指導分野 3
豊見城中央病院	新垣　晃	2	3	5
豊見城中央病院	永山　盛隆	3	6	9
豊見城中央病院	伊佐　真徳	1	4	
豊見城中央病院	毛利　正玄	3	4	
豊見城中央病院	上原　邦彦	1	4	
豊見城中央病院	堀切　健士	2	4	5
豊見城中央病院	工藤　啓久	3	4	5
豊見城中央病院	上原　大志	2	4	6
豊見城中央病院	嘉数　哲	1	6	9
琉球大学医学部附属病院	金谷　文則	2	7	9
琉球大学医学部附属病院	普天間　朝上	2	4	7
琉球大学医学部附属病院	前原　博樹	3	4	8
琉球大学医学部附属病院	金城　政樹	2	5	7
琉球大学医学部附属病院	東　千夏	3	4	5
琉球大学医学部附属病院	仲宗根　哲	3	4	6
琉球大学医学部附属病院	當銘　保則	1	4	8
琉球大学医学部附属病院	大久保　宏貴	2	6	
琉球大学医学部附属病院	石原　昌人	3	6	
琉球大学医学部附属病院	島袋　孝尚	1	4	
琉球大学医学部附属病院	比嘉　勝一郎	1	4	
琉球大学医学部附属病院	仲宗根　素子	2	7	
福岡大学病院	山本　卓明	3	7	9
福岡大学病院	塩田悦仁	2	5	9
福岡大学病院	伊崎　輝昌	2	6	10
福岡大学病院	佐伯 和彦	3	6	
福岡大学病院	吉村 一朗	3	10	
福岡大学病院	西尾 淳	8		
福岡大学病院	前山 彰	3	5	6
福岡大学病院	木下 浩一	3	4	6
福岡大学病院	田中 潤	1	10	

手稲渓仁会病院	大野　和則	3	4	8
手稲渓仁会病院	辻野　淳	3	5	6
手稲渓仁会病院	宮田　康史	3	5	6
手稲渓仁会病院	小原　由史	1	4	9
手稲渓仁会病院	蔡　栄浩	2	4	6
手稲渓仁会病院	西田　欽也	2	7	9
南部病院	外間　力人	3	6	9

【豊見城中央病院整形外科専門研修プログラム　専攻医ローテーション表】（例



6. 専門研修プログラムを支える体制

①専門研修プログラムの管理運営体制の基準

基幹施設である豊見城中央病院においては、指導管理責任者（プログラム統括責任者を兼務）および指導医の協力により、また専門研修連携施設においては指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価ができる体制を整備します。専門研修プログラムの管理には日本整形外科学会が作成した指導医評価表や専攻医評価表などを用いた双方向の評価システムにより、互いにフィードバックすることによって研修プログラムの改善を行います。

上記目的達成のために、専門研修基幹施設に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会を置く。整形外科専門研修プログラム群には、1名の整形外科専門研修プログラム統括責任者を置く。

②豊見城中央病院専門研修管理委員会

豊見城中央病院は複数の基本領域専門研修プログラムを擁しているため、当該施設長、各診療科専門研修プログラム統括責任者からなる専門研修管理委員会を設置する。

③基幹施設の役割

・専門研修基幹施設は専門研修プログラムを管理し、当該プログラムに参加する専攻医および専門研修連携施設を統括する。
・専門研修基幹施設は研修環境を整備し、専攻医が整形外科の幅広い研修領域が研修でき、研修修了時に修得すべき領域の単位をすべて修得できるような専門研修施設群を形成する。
・専門研修基幹施設は、整形外科専門研修プログラム管理委員会を中心として、専攻医と連携施設を統括し、専門研修プログラム全体の管理を行う。
・整形外科専門研修管理プログラム委員会において、専攻医の最終的な研修修了判定を行う。
・専門研修基幹施設は、各専門研修施設が担当可能修得すべき領域と単位、および指導医名をプログラムに明示する。

④専門研修指導医の基準

専門研修認定施設に勤務し、整形外科専門医の資格を1回以上更新し、なおかつ日本整形外科学会が開催する指導医講習会を5年に1回以上受講している整形外科専門医。その指導医講習会には、以下にかかげる項目のいくつかがテーマとして含まれていること。

(1) 新たな専門医制度における研修
(2) 医療の社会性
(3) 患者と医師の関係
(4) 医療面接
(5) 医療安全管理
(6) 地域保健・医療
(7) 指導医の在り方
(8) 研修プログラムの立案(研修目標、研修方略及び研修評価の実施計画の作成)
(9) 専攻医、指導医及び研修プログラムの評価
(10)その他専門研修に必要な事項

⑤プログラム管理委員会の役割と権限

研修基幹施設において整形外科専門研修プログラムと整形外科専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会を設置する。整形外科専門研修プログラム管理委員会は、次に掲げる者を構成員に含まなければならない。

1)整形外科専門研修プログラム統括責任者（基幹病院の指導管理責任者が兼務）。

2)研修連携施設の指導管理責任者。整形外科研修プログラム管理委員会は、研修プログラムの作成、研修プログラム相互間の調整、専攻医の管理及び専攻医の採用・中断・修了の際の評価等専門医研修の実施の統括管理を行う。整形外科研修プログラム管理委員会は研修の評価及び認定において、必要に応じて指導医から各専攻医の研修進捗状況について情報提供を受けることにより、各専攻医の研修進捗状況を把握、評価し、修了基準に不足している部分についての研修が行えるよう、整形外科専門研修プログラム統括責任者や指導医に指導・助言する等、有効な研修が行われるよう配慮すべきである。研修プログラム管理委員会は、専攻医が専門医研修を継続することが困難であると認める場合には、当該専攻医 がそれまでに受けた専門医研修に係る当該専攻医の評価を行い、管理者に対し、当該専攻医の専門医研修を中断することを勧告することができる。研修プログラム管理委員会は、専攻医の研修期間の終了に際し、専門医研修に関する当該専攻医の評価を行い、管理者に対し当該専攻医の評価を報告しなければならない。整形外科専門研修プログラム管理委員会の責任者である専門研修プログラム統括責任者が、整形外科専門研修プログラム管理委員会における評価に基づいて、専攻医の最終的な研修修了判定を行なう。

⑥プログラム統括責任者の基準、および役割と権限

プログラム統括責任者は、整形外科領域における十分な診療経験と教育指導能力を有し、以下の整形外科診療および整形外科研究に従事した期間，業績，研究実績を満たした整形外科医とされており、本研修プログラム統括責任者はこの基準を満たしています。

≪基準≫

(1) 整形外科専門研修指導医の基準を満たす整形外科医

(2)医学博士またはピアレビューを受けた英語による筆頭原著論文3編を有する物

≪役割・権限≫

(1) 専門研修基幹施設である、豊見城中央病院における研修プログラム管理員会の責任者であり、プログラムの作成、運営、管理を担う。

(2) 専門研修プログラムの管理・遂行や専攻医の採用・修了判定につき最終責任を負う。

⑦連携施設での委員会組織

連携施設において指導医、専攻医の研修に関わる関連職種の責任問等から構成する連携施設研修プログラム管理委員かを設置して、指導体制、内容、評価を行い有効な研修が行われるようるに配慮する。

⑧豊見城中央病院整形外科専門研修プログラム管理委員会

豊見城中央病院(基幹施設)

・新垣晃(プログラム統括責任者)

・永山盛隆（基幹病院指導医）
・伊佐真徳（基幹病院指導医）
・毛利正玄（基幹病院指導医）
・上原邦彦（基幹病院指導医）
・堀切健士（基幹病院指導医）
・工藤啓久（基幹病院指導医）
・上原大志（基幹病院指導医）
・嘉数　哲（基幹病院指導医）

連携施設
・仲宗根哲（琉球大学医学部附属病院）
・山本卓明（福岡大学病院）
・辻野淳（手稲渓仁会病院）
・外間力人（南部病院）

⑨労働環境、労働安全、勤務条件
豊見城中央病院や各研修連携施設の病院規定によりますが、労働環境、労働安全、勤務条件等へ以下に示す配慮をします。
・研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
・研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。
・過剰な時間外勤務を命じないようにします。
・施設の給与体系を明示します。

7. 募集人数と応募方法

【専攻医受入数】
1名（1学年）
【応募方法】
応募に必要な以下の書類を郵送またはメールで下記に送って下さい。選考は面接で行います。
豊見城中央病院臨床研修ページ
http://tomishiro-chp.jp/clinicaltraining

必要書類：① 履歴書
② 医師免許証の写し
③ 医師臨床研修修了登録証（修了見込書）

【募集期間】

募集時期:8月1日頃から

選考時期:10月1日頃から

【問い合わせ先】

〒901-0243 沖縄県豊見城市字上田25番地

豊見城中央病院 臨床研修支援室

担当：川平 徹

Tel:098-850-3811

FAX:098-850-3810

rinken@yuuai.or.jp